

すっかんぽ

1995年 7月号

夏の夜に咲く花 ～ ネムノキ ～

期末テスト初日の朝、次の交差点を右折すれば、西高まであと3分という辺りで、道路沿いの一本の木の枝が、鮮やかなピンク色に染まっているのに気がついた。今年も、ネムノキの花が咲き出したのである。ネムノキは、マメ科の落葉高木で、れきとした豆がでるのだが、残念ながら食べることはできない。

ネムノキが有名なのは、その名のとおり、夜になると葉っぱをぴたりと閉じ合わせて、寝てしまうからなのである。しかし、不思議なことに、あたりが暗くなると、葉っぱがねむり始めると、それとまっていたかのように、ピンクの糸と束ねた繊細な花が、姿も現わすのだ。

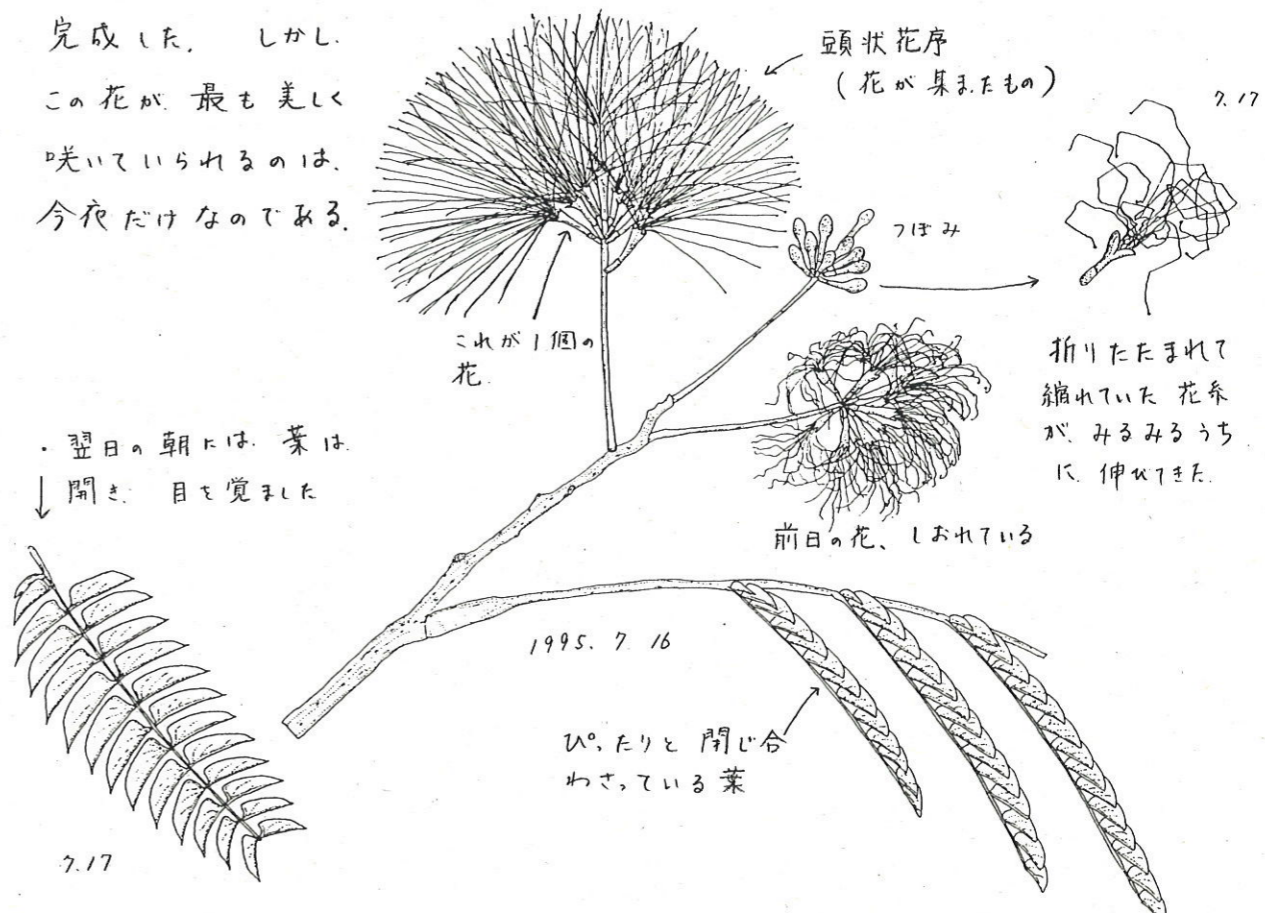
夏の夜に咲く花、ネムノキは、夜、最も生き生きと活動しているのである。

7月16日の夜9時30分頃、突然、今なら、咲きかけている花が見られるかもしれないと思ひ立ち、西高へと車を走らせた。車を道路沿いに止め、懐中電灯をつけて、花を捜している時、時々通る車が、何事かと思ひ、近づいてくる。あまり変に思われるとまずいので、車がこない時を見はからって、速攻で、捜すことにした。確かに、全ての葉は、ぴたりと閉じ合わせられ、寝ているようだった。

しかし、花はすでに完全に開き切った後で、どうやら、もっと早い時間

帯に開花してしまっただけだった。満開の花の周囲には、たくさんのお蝶が飛び回っていた。昼、咲く花は、チョウやハチなどによって花粉が媒介されているのに対し、夜咲く花は、蝶の仲間がその役目を果たしているのだろう。ネムノキの花からは、淡い甘い香りが漂っていた。強い日差しをさげ、夜に開く花にふさわしい香りであるような気がした。家で観察するため、一枝持ち帰ったが、周囲が明るくなると、午前6時には、葉は、ほとんど開いていた。

7月17日
午後7時ころ、すでにネムノキのつぼみの先端が割れて、中から糸状のおしべとめしべが伸び始めていた。ネムノキの花(頭状花序)は、1つ1つの花が20個近く集まってできている。そして、1つの花からは、約20本のおしべと1本のめしべがでてくるのである。9時ころになると縮れていた、おしべやめしべは、ピンと伸び、誇らしげな花が完成した。しかし、この花が最も美しく咲いていられるのは、今夜だけなのである。



翌日の朝には、葉は開き、目を覚ました

7.17